

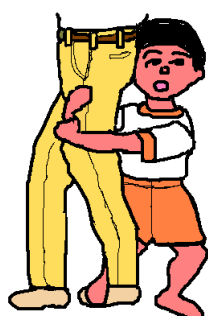
SETOGIWA TIMES

発行所：行政書士塩見事務所 E-mail: info@setogiwa.com Web: www.setogiwa.com
大阪市中央区谷町 2-5-4 702号 Tel: 06-6946-9505

① 「子どもは国の宝」

昔から「子どもは国の宝」と言われます。かつて安倍総理大臣がこの言葉を使った時、国会議員から「子どもを金銭感覚で見ている、国の道具と見ている」といった趣旨のクレームがきました。今の議員さんなら何というでしょう？

5月10日から国会で子育て関連法案の審議が始まりました。その目玉である「総合こども園」構想には、制度設計が現実とかけ離れたものであるとの批判が相つぎました。自民党内では文教族を中心に「子どもは家庭で育てるべきだ」との声が根強いとか。「子どもは家庭で・・・」という考え方を一概には否定できませんが、そこには「誰が」という主語が欠落しています。おそらく、「子どもは『母親が』家庭で育てるべきだ」といいたかったのでしょう。



今の政界・経済界の中核を成す層は、戦後いち早く民主教育・男女平等教育を受け、改革的な空気の中で育ったのですが、その後の高度経済成長期に「女は家庭、男は仕事」という家族観にどっぷり浸かった世代です。だから何のためらいもなく「女性が外に出て仕事をするのもいいけど、女性の一番大切な仕事は子育てだ。」と口にすることができるのです。

大阪維新の会は大阪市議会に「家庭教育支援条例」の提出を検討したものの、その内容に保護者団体からの批判が集中し、5月7日には白紙撤回しました。

この条例には「伝統的子育てによって（子どもの）発達障害は予防、防止できる」との条文がありました。「伝統的子育て」とは「女は家庭、男は仕事」という家族観によって成り立つ子育てのことを指しているのでしょう。

専門的知識がないのに発達障害についてもものをいう、その予防・防止策として「伝統的子育て」を持ち出す、条例さえ作れば家庭問題が解決すると考える、このような人たちにまともな家庭教育支援ができるとは思えません。

この条例には他にも「保護者への支援」の章に「1日保育士体験・幼稚園教諭体験」を保護者に義務づけるという条文がありました。芸能人等がセレモニーで1日署長や1日駅長に扮するのはともかく、1日の体験が保護者の子育て支援になると考える安易な発想はどこから来るのでしょうか。少し家事を手伝ったら「やった、やった」といいたがる男性の心理と表裏一体のように思えます。

子どもは家の宝

公的な子育て支援があまりあてにできないとしたら、庶民は自分たちでできることから始める＝「自助努力」をするしかありません。



自助努力として最も期待されるのは父親の育児参加でしょう。一昔前に比べて、保育園に子どもを送り届ける父親の姿・公園で子どもと遊ぶ父親の姿が増えたこと、保育園の年中行事への父親の参加が当たり前のようになっていることをみると、父親の育児参加が増えていることは間違いないようです。

とはいえ主に子育てを分担するのが母親であることに変わりはありません。ひとりで子どもを保育園に送り迎えするお母さんたちの実情を聴いてみると、その形相が陰しくなるのもうなずけます。

- ・ 自転車に子どもを乗せ、自宅から20分走って保育園に連れて来て、もと来た道を15分戻って職場へ行くというケース。
- ・ 二人の子どもが同じ保育園に入れず、上の子を一つ目の保育園に預けたあと下の子を別の保育園へ預けに行き、そのあと職場に向かうというケース。
- ・ 春の入園が決まるまでのつなぎとして、公立保育園の一時保育や、1分10円の一時的預かりを網渡り的に利用したケース。

さて、世のお父さん方、お母さんのまねはできますか？「そこまではムリ、仕事ならもっと頑張れるけど・・・」というのが正直なところではないですか。

ほかにもできます：相続・遺言/交通事故/告訴・被害届/パスポート手続

E-mail: info@setogiwa.com Web: www.setogiwa.com

厚生労働省の発表した「平成23年度雇用均等基本調査」速報版によると育児休業取得率は男性・2.63%、女性・87.8%となっていますが、女性の取得率には出産を機会に退職した女性（全体の6割）は含まれていません。出産後も仕事を継続できた女性の取得率が高いのは、むしろ当然のことかもしれません。